

(公財) コープともしびボランティア振興財団

2024 年度事業報告ならびに決算報告

【 2024 年度事業報告 要旨 】

1. 子どもや若者から高齢者まで全世代に対して開かれ、つながる協同のコミュニティづくりに取り組む 183 団体に対して総額約 1,500 万円のボランティア活動助成を行いました。
2. 社会的課題解決にチャレンジする団体を賛同企業とともに応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」は、17 社とコープこうべから寄付を得て 9 団体に対し、総額約 320 万円の助成を行いました。
3. 若い世代のボランティア人材の育成を目指して「高校生のボランティア顕彰」を実施し、6 回目となる 2024 年度は選考の結果、19 校を顕彰しました。
4. 「第 4 次中期計画」の 1 年目として、多様な活動者が自由に交流し繋がり合うことを目指したシェアミーティングの開催やレインボースクール・学習会に参加するなどコープこうべとの新たな協同にも取り組みました。

1. 地域づくりの一翼を担う中間組織として課題の解決に取り組む団体やネットワークを支援します

(1) ボランティア活動助成

①2024 年度助成の分野別実績

分野	対象者	件数	助成額(円)	助成構成比(%)
福祉	高齢者	38	1,671,000	11.3
	障がい者	21	1,243,000	8.4
	青少年	1	150,000	1.0
	子ども(親子)	8	905,000	6.1
	地域住民	16	1,101,000	7.4
	施設・病院	1	15,000	0.1
	その他	7	715,000	4.8
	合計	92	5,800,000	39.7
まちづくり		11	1,476,000	10.0
防災・減災		4	434,000	2.9
人権		1	180,000	1.2
多文化共生・多世代交流		8	886,000	6.0
子ども育成		43	3,538,000	23.9
食と農		1	150,000	0.1
環境		16	1,254,000	8.5
その他		7	1,064,000	7.2
	総合計	183	14,782,000	100.0

②「市民活動交流会 2024」を開催

5月11日、財団のボランティア活動助成を受けている団体が兵庫県全域から一堂に集まり活動地域が近く、異分野の活動をしている5～6団体ごとのグループで交流しました。活動の経験年数や分野が違っても異なる立場でお互いの情報を共有する姿が見受けられました。コープこうべの各地区の本部長や組合員理事、神戸市地域協働局からもご参加いただきました。今後の活動の刺激となり、交流会後もつながりの輪が広がっていくことを期待します。

交流テーマ

- ・メンバーの人材育成など後継者問題
- ・運営資金の確保や効果的な広報について
- ・コロナ禍をきっかけに工夫したことで現在の活動につながっていること

③2025年度助成に向けて

11会場で開催した2025年度の助成説明会では、財団が考える「目指していただきたい団体像」を新規申請団体に向けて発信しました。例えば、財団の助成金だけに頼らずに将来的には自立していただくこと、コープこうべや地域の多様な団体とつながりを持っていただくことなどを具体的な助成団体の例を挙げて伝えました。また、継続申請を希望する団体向けの説明会でも他機関の助成金への挑戦、会費や参加料など適切な受益者負担の考え方を推奨しました。今後も助成金をきっかけとして共に考え、学びながら団体の成長を支えていくことを目指します。

また、第4次中計にも掲げる若い世代のボランティア活動のサポートとして、高校生や大学生がメンバーとして継続的に活動する団体には交通費を助成することとしました。

(2) 社会的課題解決にチャレンジする団体への助成

①第8回「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト助成」

(上限50万円/団体、助成総額319.5万円)

社会的課題を新しい手法で解決しようとする意欲あふれる市民団体に対して賛同企業と力を合わせて応援する「やさしさにありがとう ひょうごプロジェクト」。この助成では、NPOなど法人格のある団体も応募可能とし、対象団体の幅をひろげています。

2024年度は、37団体から申請があり(前年度は53団体)、書類選考を通過した9団体が賛同企業の代表と専門家による最終選考会に進みました。最終選考会は申請団体と賛同企業、コープこうべ、財団で社会的課題を共有し解決に向けての手がかりを探していきたいとの思いから対話形式で実施しました。結果、以下9団体に合計319.5万円の助成をしました。

(助成実績) 9 団体 319.5 万円

団体名/助成金額/プロジェクト名	プロジェクト内容
<u>あまママ会</u> (50 万円) ママツナグ事業	資格や技術などを持つママ講師(ママツナグアドバイザー)が産前、産後、育児中の母親を応援。地域で活躍するママ講師が身近で相談できる先輩として若い世代の子育て支援をしました。今後も子育て中の母親たちの新たな挑戦を支援する場を提供し自立、自信へとつなげていきます。
<u>かぜのさとプレーパーク</u> (27 万円) 子どもの主体的な遊びを通して地域活力向上プロジェクト	毎月 1 回、灘区の風の郷公園で自由な遊び場「プレーパーク」を開催しました。地域住民や保護者たちの子どもに対する眼差しを優しく、温かい見守りの目線に変えて、今後も子どもと大人がともに楽しく関わり合う、まちづくりを目指します。
<u>労働者協同組合 甲南げんき村</u> (50 万円) 甲南げんき村こどもボランティアプロジェクト	こどもたちのボランティア精神を育み、市民活動に関心を持つきっかけづくりとして、ちよいボラ(ちょっとしたボランティア)、ちよいタイ(ちょっとした体験)講座とボランティアスタンプカードを実施しました。今後も学んだことを家庭や地域で具体的に実践する活動につなげていきます。
<u>特定非営利活動法人コントロール PD</u> (14.9 万円) クッキング・リハ	パーキンソン病に適した栄養バランスの献立を当事者、家族と一緒に学び調理して食べる「クッキング・リハビリ」を開催しました。身体・認知機能の維持、向上を図るとともに参加者同士の交流も深め、社会的孤立の解消を今後も目指します。
<u>ちびっこエジソン</u> (40 万円) 「楽しい」があふれる地域の子ども食堂	普段ひとりで過ごすことが多い共働き家庭の子どもを対象として月に 2 回子ども食堂を開催しました。今後も一緒に料理を作り、食べることで友人関係をつくり、安心して過ごせる居場所づくりを目指します。
<u>FUJIOKA</u> (40 万円) スタンドはガソリンを入れるだけじゃない!! 古民家エネルギー爆発発信地プロジェクト	長年空き家になっていた古民家を買取り、再生し地域活動の拠点や親子農業体験などの場づくりを進めました。古民家が情報共有、コミュニティの場として再生し地域住民、新規参入者どちらも安心して暮らせる地域となることを引き続き目指していきます。
<u>ボランティアグループでいんぷる</u> (23.5 万円) 障害を越えた仲間作り「絆」プロジェクト	神戸市内の特別支援学校に在籍するこどもや卒業生を対象に月 1 回、屋内外でのイベント企画や交流キャンプを開催しました。また、障がいを超えた仲間作りや学生がボランティ

	ア活動に参加するきっかけとなるよう、高校や大学で研修会を実施しました。
<u>特定非営利活動法人ゆるり家</u> (24.1 万円) 妊娠中から幼児期まで！地域 みんなでつながろう	妊娠中、子育て親子を対象に月 1 回「にんぷサークル・ちぎりパン」と「公会堂によつとい day」を開催しました。稲美町に移住してきた人々や若い世代が地域の中に溶け込み、みんなで子ども達を見守っていけるよう妊娠中や幼児期からのつながりづくりを今後も目指します。
<u>NPO 法人わいわいみ・な・み</u> (50 万円) 一人きりになっても 独りぼっちにはさせない！～地域の限界に挑む、みんなで地域を守るプロジェクト～	制度の狭間で困っている方等を対象に、配食による見守りや相談などの支援をしました。また、地域食堂を開設し孤立防止・生きがいづくり等を進めました。地域住民による取り組みを基本とし、活用する食材は地元産を使用し、今後も地域活性化の一助につなげていきます。

②助成団体を訪問し賛同企業へ報告

財団スタッフが 9 団体を訪問してプロジェクトに込めた想いや進捗状況をヒアリングし、訪問記にまとめて賛同企業に伝えました。今後も賛同企業には助成団体の活動状況などを丁寧にお知らせし、継続的な支援を呼びかけます。

(3) 能登半島地震被災地支援助成

①能登半島地震被災地支援団体に助成

コープこうべが呼びかけた緊急募金では多くの組合員から善意が寄せられました。この寄付金の一部を活用し、当助成で被災地の方々の暮らしの再建や被災地域の復興活動に取り組む団体を 3 期に分けて支援しました。

助成対象期間 第 1 期 7～9 月、第 2 期 10～12 月、第 3 期 1 月～3 月

(助成実績) 8 団体 約 348 万円

(単位:円)

団体名	活動内容概略	第 1 期助成額	第 2 期助成額	第 3 期助成額	累計
播州復興隊	被災家屋の片づけ	171, 000	65, 000	212, 000	448, 000
若者防災協議会	現地のニーズに応じた活動(家財道具の搬出作業、災害ごみの分別、子どもたちとの交流、炊き出しなど)、仮説や避難所でのサロン活動	300, 000	—	166, 135	466, 135

特定非営利活動法人 日本ふれパト協会	屋根瓦修復、家屋搬出撤去、貴重品の搜索、家屋ブロック壁解体等	179,404	—	—	179,404
特定非営利活動法人 ブレーンヒューマニティー	復興支援および傾聴活動	189,857	—	主たる目的が調査のため不採択	189,857
神戸・心絆(こうべ・ここな)	炊き出しと交流	300,000	299,055	241,721	840,776
被災支援ボランティア団体「おたがいさまプロジェクト」	写真洗浄の広報、受け入れ、被災地取材活動、心のケア活動など	250,000	300,000	287,500	837,500
特定非営利活動法人 CODE 海外災害援助市民センター	足湯ボランティア活動	300,000	—	—	300,000
みんなで減災し隊！	大学生のボランティアサークルと連携し被災地での支援活動を経て事後の報告会を開催	—	216,843	—	216,843
	計	1,690,261	880,898	907,356	3,478,515

(4) ひと育て、学びや交流の場の充実

①第6回「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施

ボランティア人材の育成のための取り組みとして「高校生ともしびボランティア顕彰」を実施しました。高校生がボランティア活動を通して、心豊かに成長し、次代の担い手となることを目的としています。

2024年度も兵庫県教育委員会と兵庫県私立中学高等学校連合会のご後援を得て神戸市校長会・県校長会でのご案内や各高校へダイレクトメールを出すなどの広報活動を行った結果、県内20校から申請がありました。選考会を経て下記19校の顕彰を決定し、顕彰状と副賞3万円を贈りました。また、顕彰校を訪問し、財団の機関紙「ともしび通信」で生徒達の活動を紹介しました。

顕彰を受けた高校生の交流会を3月27日に開催し、14校64名の先生・生徒が参加しました。

(顕彰団体) 19校

学校名/団体名	主な活動内容
明石市立明石商業高等学校 生徒会	募金活動(193募金、難病患者支援募金および災害地域の支援活動)
学校法人芦屋学園 芦屋学園高等学校 ボランティア部	子ども食堂のボランティア活動(校外) SDGsの啓発活動(校内)

学校法人甲南学園 甲南高等学校 ボランティア委員会	高齢者や小学生を対象とした熱中症講座
学校法人玉田学園 神戸常盤女子高等学校 ボランティア部	ウクライナ避難民支援活動（モタンカ人形作り、交流会、販売ブース、フードドライブ活動）
神戸市立葺合高等学校 すぎな会	募金活動（校内、赤い羽根共同募金、あしなが募金など）
兵庫県立明石清水高等学校 ボランティア部	フードドライブ活動
兵庫県立明石南高等学校 ボランティア部	子ども食堂でゲームを企画し子どもたちと交流
兵庫県立赤穂高等学校 定時制課程 ボランティア部	播州赤穂駅前ロータリーイルミネーション
兵庫県立芦屋高等学校 ボランティア部	記者として地域の課題や資源を発見し記事にまとめる活動
兵庫県立尼崎小田高等学校 あまおだ地域応援隊（ボランティア部）	小田高校主催の夏祭りの子ども向け縁日
兵庫県立伊川谷高等学校 ボランティア部	SDGsに関連するテーマを手作り人形劇で地域に発信
兵庫県立伊丹西高等学校 WEST	イベント企画を通じた地域との交流
兵庫県立錦城高等学校 ボランティア同好会	コープ西明石で開催される「笑くぼカフェ」の運営協力（体操、ゲーム、スマホ操作相談等）
兵庫県立香寺高等学校 食物部	子ども食堂のボランティア（会場設営、調理、配膳、子どもたちとの交流）
兵庫県立洲本実業高等学校 ユネスコクラブ	「Kaguya プロジェクト」（環境保全、地域貢献）
兵庫県立姫路商業高等学校 地域創生部	災害食のパン缶詰、真空パックご飯を活用した啓発・広報・販売活動
兵庫県立武庫荘高等学校 むこっ子防災キャラバン	子供、親子を対象とした防災ボトルのワークショップ
兵庫県立和田山高等学校 ボランティア部	被災地支援（熊本地震、人吉水害、能登半島地震）
百合学院高等学校 インターアクトクラブ	地域の子どもたちが参加するイベントのお手伝い

②シェアミーティング「ゆるとも」を開催

助成団体を対象とした緩やかに繋がるシェアミーティング「ゆるとも in 甲南げんき村」を開催しました。自団体の活動内容の紹介、情報交換、財団スタッフによるミニ講座などを実施し、計6回で延べ23名が参加しました。助成団体同士、互いに傾聴し合い、得られたことを自分たちの活動に活かそうとする姿勢が見受けられました。財団としても各団体の想いや現状を深く知ることができ、より関係性が深まりました。今後も、このような緩やかな場をきっかけに第4次中計に掲げる、活動者同士が自由に交流して繋がるプラットフォームづくりを目指します。

2. 地域に当財団の活動への共感者、支援者をさらに拡げます

(1) 当財団の活動を積極的に広報し、共感を広げる

①ともしび通信の発行

年4回発行のともしび通信では、団体の情報や財団の動きなどを丁寧に広報しました。特に121号では、新規助成団体の活動紹介を、122号ではレインボースクールやコープ委員会学習会で助成団体が講師となつての講座開催の特集を掲載しました。

②コープこうべと連携した広報

コープこうべの様々な取り組みを紹介するラジオ関西の番組「コープ・スコープ」で月1回5分程度の枠でスタッフが出演し、財団について紹介しました。ボランティア活動助成、やさしさにありがとうひょうごプロジェクト、高校生ボランティア顕彰の案内をしました。また、助成団体も2団体が出演し、活動内容を紹介いただきました。

(2) コープこうべの関連部署や組合員組織と連携し、広報活動を推進

①レインボースクール・コープ委員会学習会への参加

コープこうべの組合員が参加するレインボースクールやコープ委員会の学習会などで、5つの助成団体が講師となりそれぞれ講座を開催しました。(21会場 214人が受講) 各講座の冒頭に財団スタッフが財団の活動を紹介する時間を必ず設けました。第4次中計に掲げるコープこうべとの新たな協同の取り組みとして今後も継続し、市民活動やそれを応援する財団への理解を深めるきっかけづくりとします。

講座名

「防災・減災について学ぶ」、「大災害で通信回路が遮断された時の連絡手段ってどうするの」、「スッキリ暮らそう！今日から楽々お片づけのコツ～通帳・印鑑・贈答品の整理とエコのお話～」、「知っておきたい“がん”のこと～正しい知識と心構え～」
「日本の精神医療と今後について～こころの病気について理解を深める～」